

## 編集後記

協会の主な事業にシンポジウム・技術例会の開催と協会誌 (BM NEWS) 刊行がある。前者は開催費用を参加費で賄うことで収支をややプラスにする工夫は可能だが、後者は基本的に年会費収入の一部を充てて実施している。会員会社などからの広告代を刊行費に補填してはいるものの負担金は大きい。

当協会では、個人会員入会希望者は多いものの、法人会員が残念ながら減少傾向であり、年会費収入が減少しているため協会誌刊行費の負担金は重要な検討課題の一つである。工場の海外移転やコンプライアンスを理由にして各種団体から離れていく企業が多いのが原因の一つである。

協会会員で組織する各種委員会で議論して頂いた結果、製本コスト低減が可能となる CD 化の案が出た。CD 化により製造コストを抑え、ご講演頂いた資料などをカラー化できるため、より分かりやすい資料になる可能性がある。ただ、CD 化により広告掲載に対するメリットが損なわれる恐れもある。議論の中では、協会誌の内容を見る際に必ず広告を見る義務を付与するなどのアイデアも出たが、便宜性に欠けるという問題が発生する。結局、CD 化によって広告収入がなくなれば CD 化のメリットはない。また、世の中は正にインターネット時代であり、CD 化は早晚 Web データに代わっていく。ただ、現在のインターネット環境ではまだまだスピードの点で不十分であり時期早々という意見も得られた。

このような意見を基にして、協会誌発行でお世話になっている(有)アールプリモの泉川様にカラー印刷の検討をお願いした。費用負担は高くなるものの、データの見やすさを考えると大変興味深い試みである。

検討結果は、ページ数をこれまでの半分にできれば費用負担がこれまでと同等にできるということであった。また、カラー化のメリットで、小さい図面であるのも関わらず意外に分かり易くなることが分かった。

今回の試みは、費用負担についての解決策にはならないものの、会員各位にとってより読み易い協会誌になる可能性がある。新企画で編集したため、皆様のご感想をお寄せ頂ければ幸いである。

最後になりましたが東日本大震災で大きな被害を受けた皆様方にお見舞を申し上げます。

機関紙編集委員長  
大森賢次